

【蕨市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

これまでの実践とICTを最適に組み合わせ、個別最適な学びと、協働的な学びの一体的な充実を図り、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。

2. GIGA第1期の総括

(1) ICT環境の整備

文部科学省によるGIGAスクール構想に基づき、令和2年度中に1人1台端末とともに、通信ネットワークの整備等を行った。

(2) ICTの活用推進

ICT活用指導力向上ワーキンググループを組織し、効果的な指導方法の共有や発信を行うとともに、ICT支援員によるオンライン勉強会を定期的を開催するなど、活用を推進してきた。

(3) 課題とその解決策

- ・令和4年度の県調査から令和5年度の県調査では、毎日活用していると回答した学級の割合が約20%増加(約40%→60%)し、一人一台端末を活用した授業が日常的に展開されるようになってきた。しかし、教師の指示による一斉一律の活用に留まることが多く、子供が主体となり「自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面」における活用状況は全県の平均値より低い実態があり、本市の課題と言える。より良い実践を共有したり、デジタルドリルの活用を推進したりして、個別最適な学びを充実させていく。
- ・故障端末の増加に伴い、端末の修繕及び予備機の確保が課題となった。対策として、共同調達において15%の予備機を計画的に調達する。また、1人1台端末の整備に合わせて画面フィルムを整備し、画面保護により故障を軽減する。

3. 1人1台端末の利活用方策

(1) 1人1台端末の積極的な活用

各校の教員がICTの効果的な活用について理解を深め、教室で実践できるように、ICT活用に関する研修を計画的に実施していく。

ICT機器だけではなく、学校教育に関する知識を有するICT支援員を継続的に配置し、市内の教員向けの研修や情報共有等行っていく。

端末の活用頻度については、令和5年度の県調査において約80%の学級が週3回以上活用していると回答している。「教育DXに係る当面のKPI」には届いていないため、端末の持ち帰りやデジタルドリルの活用等、日常的な活用を一層推進していく。

(2) 個別最適・協働的な学びの充実

個別最適な学びと協働的な学びを一体的な充実を図り、主体的・対話的で深い学びを実現していく。そのためには、教師主体の一斉一律の端末の活用から、子供が主体となり「児童

生徒同士がやり取りする場面」や「自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面」をデザインしていく必要がある。1人1台端末の活用が進んできた今、次のステップとして、前述した教師の指導観の転換を図っていく。

(3) 学びの保障

多様な児童生徒の実態に合わせた学びの保障に、1人1台端末の活用は必要不可欠となっている。オンライン授業等の不登校児童生徒への対応、教育相談体制の充実、外国人児童生徒や、特別な支援を要する児童生徒の支援等、誰一人取り残されない学びの保障を実現していく。